

群馬創生 Vol.2

信頼重ねて 事業を拡大

伊藤 糸井商事は今年で創業76年を迎えられました。改めて、会社の歴史を教えてください。

糸井 終戦直後の1946年に現在の高崎市吉井町で創業しました。戦時中、軍需産業の理研コンツェルンで働いていた父が戦後、工場の解体、整理で鉄スクラップの回収に携わったことが会社のルーツです。

当時、高崎から神奈川の川崎まで、壊した機械をリヤカーに載せて運んでいたといわれています。亡き父から「きつ、きつ、きつ、きつ、きつ、きつ、きつ、きつ、きつ、きつ」といって、何十往復もした」と聞かれました。

その後、50年に始まった朝鮮戦争で鉄需要が高ま

信頼重ねて 事業を拡大

総合リサイクル業の糸井商事(高崎市上大類町)の糸井丈之社長とフリーキャスターの伊藤聡子さんが「群馬創生」をテーマに語り合う対談シリーズ。2回目は、世界的な気候変動などを背景に地球規模の課題となっている環境保護やSDGs(持続可能な開発目標)について、創業以来、リサイクル業に携わってきた糸井商事の歴史を振り返りながら考える。



フリーキャスター

伊藤 聡子さん



糸井商事社長

糸井 丈之さん

いとう・さとこ フリーキャスター、事業創造大学院大学客員教授。1967年、新潟県糸魚川市生まれ。東京女子大卒。事業創造大学院大学でMBA(経営学修士)取得。現在はコメンテーターとして「ひるおび」(TBSテレビ)などに出演し、地方創生をテーマに幅広く活躍する。

いとい・たけゆき 糸井商事社長、糸井ホールディングス(HD)社長。1954年、高崎市生まれ。高崎高一慶応大卒。野球の独立リーグ、群馬ダイヤモンドペガサスの球団会長を務める。NPO法人群馬外国人支援センター理事長、群馬eスポーツ社長。

り、事業を拡大。55年には前身となる糸井商店60年に糸井商事に社名変更)を設立しました。高度経済成長の波に乗って設立から7年間で小山(栃木県)、長野、太田に営業所を開設。現在の本社を置く高崎市上大類町に、大類ヤード(現高崎工場)を完成させました。

鉄スクラップだけでなく、銅をはじめとする非鉄金属も扱うようになり、鋼材の販売や鉄筋、鉄骨工事、解体工事など、時代の流れとともに業務内容を拡大していきました。

伊藤 糸井社長はかねてから、会社を継ぐと考えると「父の跡を継ぐ」と考えられていたのですか。

糸井 私が父の跡を継いで社長に就任したのは99年です。大学卒業後、製鉄会社に2年間勤めて糸井商事に入社したのですが、大学

の途中までは商社マンになるかと考えていて、継ぐつもりはありませんでした。

3人兄弟の長男ですが、次男の方が跡取りに向いていると思っていました。しかし、都内で弟と食事をした際に「兄貴が戻らないなら、俺も戻らない」と言われてしまいました。これは困りました。

将来を考える中で、「身一つで創業した会社を他人に継がせることになれば、父は悲しむだろう」と思い、決意しました。

伊藤 会社を継ぐする中で、印象に残っている仕事はありますか。

糸井 東京湾アクアラインの建設工事と高崎駅前再開発の二つの事業です。東京湾アクアラインは、川崎市と千葉県木更津市を結ぶ総延長15.1kmの有料道路です。わが社はトンネルの壁面に使用されるRCセグメントの構築を担当。トンネル部分の約5分の2に当たる箇所を骨格となる鉄筋の組み上げを行います。

た。約3年半の間、工事に携わり、使用した鉄筋総量は4万5千トンに上りました。総事業費約1.4兆円の国家的プロジェクトに大手ゼネコにも参画したことで、会社として一皮むけたと感じています。

高崎駅前の再開発事業では、高崎ビブレの解体工事に加え、高崎オーバ建設の鉄筋工事などを行いました。オーバ開業後は、施設から出る産業廃棄物や再生資源の回収もお願いし、解体から建設、廃棄物回収まで携わることができました。地域の経済サイクルに深く関わりながら事業を展開できた良い例です。

伊藤 糸井商事の強みは何でしょう。

糸井 一つ一つの仕事を丁寧にする事です。社員はもともと、うちの仕事に携わる人全員が心掛けています。会社を継ぐ中で「積み増すのは利益(信頼)」が大切だと言っていました。丁寧な仕事で信頼を得ることで、次の仕事につながる

た。約3年半の間、工事に携わり、使用した鉄筋総量は4万5千トンに上りました。総事業費約1.4兆円の国家的プロジェクトに大手ゼネコにも参画したことで、会社として一皮むけたと感じています。

高崎駅前の再開発事業では、高崎ビブレの解体工事に加え、高崎オーバ建設の鉄筋工事などを行いました。オーバ開業後は、施設から出る産業廃棄物や再生資源の回収もお願いし、解体から建設、廃棄物回収まで携わることができました。地域の経済サイクルに深く関わりながら事業を展開できた良い例です。

伊藤 会社を継ぐする中で、印象に残っている仕事はありますか。

糸井 東京湾アクアラインの建設工事と高崎駅前再開発の二つの事業です。東京湾アクアラインは、川崎市と千葉県木更津市を結ぶ総延長15.1kmの有料道路です。わが社はトンネルの壁面に使用されるRCセグメントの構築を担当。トンネル部分の約5分の2に当たる箇所を骨格となる鉄筋の組み上げを行います。

た。約3年半の間、工事に携わり、使用した鉄筋総量は4万5千トンに上りました。総事業費約1.4兆円の国家的プロジェクトに大手ゼネコにも参画したことで、会社として一皮むけたと感じています。

高崎駅前の再開発事業では、高崎ビブレの解体工事に加え、高崎オーバ建設の鉄筋工事などを行いました。オーバ開業後は、施設から出る産業廃棄物や再生資源の回収もお願いし、解体から建設、廃棄物回収まで携わることができました。地域の経済サイクルに深く関わりながら事業を展開できた良い例です。

伊藤 会社を継ぐする中で、印象に残っている仕事はありますか。

糸井 東京湾アクアラインの建設工事と高崎駅前再開発の二つの事業です。東京湾アクアラインは、川崎市と千葉県木更津市を結ぶ総延長15.1kmの有料道路です。わが社はトンネルの壁面に使用されるRCセグメントの構築を担当。トンネル部分の約5分の2に当たる箇所を骨格となる鉄筋の組み上げを行います。

糸井商事沿革

1946年	現在の高崎市吉井町で創業
1955年	株式会社糸井商店を設立 本社を高崎市成田町に開設
1958年	本社を高崎市飯玉町八新築移転
1960年	糸井商事株式会社に社名変更
1961年	小山営業所を開設
1962年	長野営業所を開設 太田営業所を開設 高崎上大類町に大類ヤード(現高崎工場)を開設
1980年	玉村工場操業開始
1998年	本社を高崎工場敷地内に移転
1999年	代表取締役社長に糸井丈之氏が就任 前社長で父の糸井久夫氏(故人)は会長に就任
2019年	エコスル問屋町、エコスル上並榎町開設



経営に環境への視点

SDGs×糸井商事

脱炭素推進 企業の責務

伊藤 今回の対談に合わせて、糸井商事の玉村工場と一般家庭の再資源ごみ回収所「エコスル」を見学させていただきました。

SDGsの取り組みが世界的なトレンドになる中、廃棄物を回収し、資源として再び社会に循環させるという事業は、資源不足への解決や環境保護が叫ばれる時代の最先端だと感じました。

糸井 リサイクル事業は創業当初から行っているのが柱の一つですが、時代の変化とともに改めて注目されていることを実感しています。

「この仕事なら糸井さんをお願いしよう」と声を掛けていただく機会が増え、事業を拡大するにつれて、事業を拡大できるようなりました。

企業の成長の基本は、経営者がしっかりと夢を描いていることだと思います。そして、常に新たなハードルを設定して社員全員で乗り越えていくことが企業の成長につながると思います。

2カ所設けています。持ち込まれる再資源ごみの量は3年間で約2.5倍まで増えました。

お父さんが仕事帰りに寄りかかると、休日に家族で出かける前にごみを置いていくという、生活の中にリサイクルが浸透してきているのではないのでしょうか。

伊藤さんは企業経営にもSDGsの視点が欠かせないかと指摘されています。今後、企業で求められることは何だと思われませんか。

伊藤 4月の東京証券取引所の市場再編に伴い、気

候変動に対する経営リスクや環境対策などへの取り組みの情報開示が、最上位のプライム市場の上場企業に義務付けられました。

中でも、二酸化炭素などの温室効果ガス排出量は自社だけでなく、サプライチェーン(供給網)全体の開示も求められるようになり、環境に配慮した経営を行っている取引先を選ぶという時代になります。

今までは、大企業が率先して環境保護に取り組むべきという風潮がありました。が、こうした変化によって、中小企業でも環境を意識した経営がより強く求められるようになっていくでしょう。

環境保護と合わせて、重要物資の供給網強化などが国内でも重要視されています。新型コロナウイルスによる半導体不足やロシアのウクライナ侵襲によるエネルギー価格の高騰などを通して、実感している人も多いのではないのでしょうか。

そうした中で、これまで海外に依存していた供給網が国内に回帰してくることも、自然由来の素材の開発などが想定されます。地方の企業に期待される役割も大きくなっていくはずで、ビジネスチャンスにつながる可能性もあります。



糸井商事玉村工場の事業内容を伊藤さん(右)に説明する糸井社長

3回目は9月下旬に掲載予定です

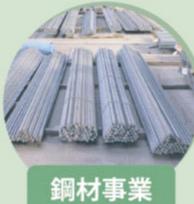
糸井商事の4つの事業



原料事業



工事業



鋼材事業



資源循環事業

Shape a circulating society
～循環する社会をカタチに～

糸井商事株式会社

本社住所 〒370-0031 高崎市上大類町399 TEL 027-352-6335

群馬をもっと元気に
糸井ホールディングス株式会社

